

平成29年度 第1回河北町総合教育会議会議録

平成29年12月4日（月曜日）

1 出欠席者氏名

河北町長 田宮栄佐美 河北町教育長 原田孝夫

河北町教育委員 真石由美子 板坂憲助 大山直子 丹野正英

欠席者（0名）

2 事務局職員の職氏名

学校教育課長 佐藤晃一 生涯学習課長 矢作勲

教育主幹(兼)指導主事 大竹 純 課長補佐(兼)管理係長 田川美和子

3 日 程

平成29年12月4日（月）午後1時30分 開会、開議 河北町役場3階・委員会室

1 開 会

2 田宮町長あいさつ

3 協 議

(1) 平成30年度教育事業について

(2) 平成30年度教育費予算について

4 その他

5 閉 会

1 開 会

○田川課長補佐(兼)管理係長

ただいまより、平成29年度 第1回河北町総合教育会議を開催いたします。初めに田宮町長よりご挨拶をお願いします。

2 あいさつ

○田宮町長

平成30年度の予算関係については、3年間の財政計画・実施計画で議会のほうにも申し上げたところでした。その中で、新規として取り上げようと考えておりましたが、谷地西部小学校を英語教育の拠点施設として整備しようという方針を決めました。運営形態については教

育委員会でいろいろ議論していただきながらお願いしたいと思っております。学校教育で習うような基礎的な教育ではなくて、近くには紅花資料館もあることも踏まえて、これからの観光事業、そういったことでの交流人口を深める、いわゆる国際交流を深めていくということも、英語の日常会話ができるようになれば、というようなことでの講座など開催できればと思っていたところでした。したがって既存としてある国際交流協会と仲良くしながら展開されればと希望しているところであります。詳しい内容については、これからつめていかなければなりません、学校の拠点施設として紅花資料館と連携の中で特化させたいと思っております。

事業関係では、いろいろありますが非構造物で残っている学校は今後、整備をしていきます。学区の再編については、都市計画マスタープラン等から示されている状況から捉えると、もう少し視点を変えて考えてもいい用件になってきたなと思っております。第2次の教育振興計画を作成していただいたわけですが、照らし合わせながら今後、展開していかなければと思っております。今後も、どうかよろしく申し上げます。

○田川課長補佐(兼)管理係長

それでは3協議に入らせていただきます。これより座長を田宮町長に申し上げます。

3 協議

○田宮町長

それでは、協議事項について申し上げます。

○原田教育長

(1)(2)にまたがっていることになりましたが、一つ目は、今、町長からお話がありました英語教育の拠点化事業で、実際は来年度から始まるということですが、各学校の英語教育の状況については、委員の方もある程度、お分かりになっていると思っておりますが、中身をどういふふうにもっていかうかというソフト面が一番の問題だと思っております。学校教育だけで利用するのではなく一般の町民の方々を対象に、ということも考えていますので、先般、内々の打合せで東北文教大学の山口教授と山大の真木講師と何人かで話していろいろアイデアをいただいたところでした。人を集めることを考えなければいけないということで、一手段としては、PTAの方々を集めるとか地域の方々を集めてとか、いろんな方法等も含めてやり方について今後、打合せをしていきたいと思います。話をしたところです。

もう一つは、谷地中部小学校、河北中学校の公開研究発表会での探究型授業で、今までとは授業のやり方が大分変わってきています。学校訪問してみて、委員の方から感想をいただければと思っております。

○田宮町長

それでは、まず学校を回られて、探究型学習を初めとして学校の現状を見てお気づきの点があればお聞かせいただきたいと思います。その中で、予算に反映できるものかどうかも含めて、取り組んでいきたいと思います。英語教育については、その後でお願いします。

○真石教育委員

探究型の授業に取り組まれて、非常に成果をあげていると感じました。子どもたちの学び方が変わってきて自ら動いて課題を見つけてと、それを目指して各学校でそれぞれやっているのだろうと思ったのですが、訪問するとそうでもない感じはしました。谷地中部小学校で取り上げたのは国語が多かったですが、山形県全体で算数・数学にてこ入れがもっと必要かなと思います。教育研究所が主体となって算数・数学も向上に計画を立てて、子どもの力をつけてという、そんな取組ができないかと思います。

学校訪問しては、学校の特徴、土地をいかして地域の方に入ってもらって特徴的な学習を展開してもらっているなど感心しています。

○板坂教育委員

探究型授業を、実際、見せてもらって授業が変わりつつあるという手ごたえを感じました。特に河北中の授業はいいなど、何が良いかというと、生徒同士の関わりが温かい雰囲気の中で行われていました。小中一緒に同じ探求型の授業改善に取り組んでいることがいいなと思うとともに、大学の連携も大事だなと思います。現在の大学は、積極的に実践に飛び込んで、それを理論付けるというふうに変ってきているので、その辺がいきているのだなと思います。3年計画だが、今年度で終了するのではなく、つなげる、続けることが大事だと思います。

学校訪問では、どの学校も人数が多くて目が届かない現実があります。特に高学年の30人から40人のクラスが、あと1年生で2クラスだったのが、2年生で1クラスでは、担任の先生を見ていると非常に大変だと思っています。県のシステムでは、そうならざるをえないが、町として人的配置を考慮して補う必要があると思います。

○大山教育委員

学校を訪問して、またAETとして3つの学校を回っているが、授業では基本、担任の先生とAETとALT3人でやっていて、3人でちょうどどの時があります。先生は30何人を一人で見ているのでとても大変だと感じます。先生方の負担を減らして例えば午前中だけサポートの先生が入るとかの体制があればと思います。

○丹野教育委員

谷地中部小と河北中を訪問して、私たちが卒業してから何年も経つが、みんながグループ方式で一人ひとりの意見をまとめたものを代表者が発表する形で、今の子どもたちは堂々としていてすばらしいと感じました。

○原田教育長

今、板坂教育委員と大山委員から話しがあった“人”の話ですが、山形県では1年生と2年生については35人を超えると2クラスになります。3年生から後はその規程がはずれ、全体で40人であれば1クラスになる。なので、3年生で1クラスになるのが谷地南部小学校はほとんどがそういう状況である。そのことについては、県の教育委員会を通じて国の方へも要望を出しています。

良いことでは、特別支援学級が今まで8人マックスでしたが6人に引き下げられました。

探究型については、各学校で続けていくようにはあります。大学入試制度が変わるので、制度にあわせた形での探究型も意識しています。因みに、東桜学館は探究型を進めていて、また高校では山形東で探究科コースが作られます。今回、東桜学館受験者は7人であり5人合格すると学級が減る予定であります。因みに学力テストでは、小学校は全国より低いが中学校で伸びる傾向にあります。

予算の兼ね合いでは、学習生活指導補助員は10人で任用しており、財源措置もあります。

○板坂教育委員

先日、谷地南部小学校を見ていいなと感じましたが、今後、タブレットと教育機器に対する予算をどのように考えていますか。

英語拠点事業については、英語化専任教師の配置等をどう考えていますか。

学習生活指導補助員については、来年度は増の予定はありますか。

○真石教育委員

タブレットを使いこなせるように、指導員等の配置があればと思います。

○原田教育長

学習生活指導補助員は現在10名です。来年度は9クプラス1あるかないかないかどうかで、必要性の問題もありますので、人数は今後の話し合いと思っています。

タブレットについては、英語の拠点化事業で15台入れる予定です。河北中学校にもグループで使えるタブレットがあります。県の補助事業もありますが、タブレットを導入するなら1クラス全部で、周囲の環境整備を合わせた分でないといけないということで、河北町の方針では、ネット環境につないでというよりも、ソフトを使っているようなことをするということが多い状況です。

○佐藤学校教育課長

30年度はICT指導員を財政計画と予算計上要求をさせてもらっているところである。

○田宮町長

県の市町村で文科省の専門の人から話を聞く機会があったが、これからの社会、子どもたちがタブレットを通じた中での教育が重要視されるということで、文科省でも推進していく方針のようです。南部小学校の先生がおっしゃっていましたが、タブレットを入れていただき非常に子どもたちが積極的に関わっているという話がありました。また、普及していくと今度は教える方側が大変になってくるということでした。学校全体からした時に、どういったカリキュラムがいいのか方向付けをしていただければ、町としても動きやすいのかなと思っています。

○大竹教育主幹

それ専門の教育というよりはタブレットは道具の一つでしかないと思っています。予算的なものがありますので一気にというよりは、タブレットの効果の検証のできる学校を深めていって、その後だんだん広めていくことが現実的かなと思います。

○田宮町長

もう一つ心配していたことは、セキュリティーをどうするかということも話がありました。

○原田教育長

小規模な形での補助も、と文科省へ教育長会でも今年、要望しました。

○田宮町長

まとめてでないダメなのでしょうか。

○原田教育長

1学級単位でないと認められないです。

○板坂教育委員

特別支援の高松校、大江校へは、河北町から何名在籍していて行き帰りの手段はどうなっていますか。

○大竹主幹

寒河江校には小学生5名、大江校は中学生3名、高校生は5名です。行き帰りは、健康福祉課の所管でタクシーの送迎になります。

○田宮町長

町村会の要望の中では、複式学級の人数16を13,14に下げしてほしいという話があります。

○原田教育長

教育長会でも校長会も連動して同じ要望を出しています。

○田宮町長

真石教育委員から話しがありました算数を強くするにはどうしたらいいのでしょうかね。

○大竹主幹

今、教育研究所の組織の見直しをしています。その中で、学力向上対策部会があり、NRTの取りまとめに軸がありました。集まってきているメンバーの話を聞きますと全国の部分とかなり増えてきて割合が大きくなってきています。それを受けて、見直しをしなければという話になっています。本格的に4月からですが、学校からそれなりのスタッフを集めて学力部会をやっていく予定です。

○原田教育長

傾向としては、小学校3・4年生の算数がおちます。

○真石教育委員

4年生までの算数が身につくと世の中に出て働けるのですが。

○田宮町長

是非、学力向上にむけてお願いします。予算関係で常に悩むところは、今回、一般質問でもありました学校にエアコン設置をということです。優先順位と考えると、タブレット導入のほうが優先事項になるんですかね。

○大竹主幹

エアコン整備をした天童市で話題になっていることですが、1学期の終わりをいつにしようかということで、涼しいのだから7月ギリギリまでということになるかもしれない。夏休みを8月1日から、となりそうな雰囲気であるようです。エアコンで暖めるということで冷房をつけたからということで暖房をはずしたら、5分に1回霜取りがあり寒くてという話も聞こえてきています。

○原田教育長

冷房は、確かにあればいいですが、学習に必ずなければならないというものでもないと感じています。

○大竹主幹

学校の先生方も、タブレットとクーラーのどちらがと言ったら、タブレットを取りそうな雰囲気はあると思います。特別支援教室の情緒のお子さんには医学的にもあった方がいいですが。

○原田教育長

エアコンについては、必要なところから徐々には財政計画に上げながら入れていっていただける現状であります。

○田宮町長

西部小学校に拠点施設を置く英語教育事業の展開についてはどうでしょうか。

○大山教育委員

私自身、AETで最初の年で、比べる材料がありませんが教えていて、私のクラスはずっと机に座ってというのがなくゲームをしたりします。その中で、覚えた英語をクラスでは使うが外にでると使わなくなります。覚えた英語を実践して体験できるということがなく、実践し体感することで英語って本当に面白いんだな、となってくれと感じています。今年、溝延小学校の担任の先生の一大決心ということで、修学旅行先で外国の人を見つけたら声をかけにいくという取り組みをしまして、1時間の授業の半分の時間で、何を聞くかということを決めてその質問をもらって私とエドワード先生で英語にして、それを次の時間から会話をして実践してということでしたが、実際、帰ってきて感想を聞くと、英語が通じてとても楽しかった、と教えてくれました。河北町にもKIRAというものがありますが、基本、大人のクラスで、もう一つ、若い人向けのクラスがあればいいのかなと思っていることを話したことがあって、それを誰がするかということになると、すぐにはできないね、という話で終わってしまうことがあって、もう少し学校の外でも使えるようなものがあれば感じています。

○田宮町長

今年、町村会で行った“鞆の浦”というきれいな場所がありまして、そこには何十万人の観光客が来るそうです。子どもに英語を教えていて、観光を紹介できるぐらいの教育を小学校からしているそうです。住んでいる子どもは少ないのですが、ほとんどの子どもは英語の会話ができますよ、という話でありました。そこまではいかないまでも、紅花資料館に外国の人が観光に来た時に、日常会話ができるぐらいだといいなと思っています。

○大山教育委員

外国の人は、紅染めにとっても興味があります。意外と、こちらが思っているようなことではないことに、すごく興味をもったりもします。

○田宮町長

西川町に台湾から地域おこし隊で来ており、その方を通じて台湾とのつながりを持たせようということで、西川町だけでは単独でチャーター便をおこすまでもいかないということで、広域的にやったらいいのではという話もあります。台湾からの観光客は見るだけではなく、体験する喜びがあるようで、紅染め体験などはとてもいいのではということでした。

○真石教育委員

どんが祭りでは、たくさんの外国の方がいらっしゃっていました。献茶式で外国の方を接客しましたが、町長おっしゃるとおり外国の方と話す機会が増えてきているのだな、と実感しました。

また、年配の方々にも英語を学ぶ機会が西部小学校の場所であるといいなと思います。たとえば、老人ク

ラブで西部小学校へ行って、お昼、お茶を飲みながらALTさんから英語を学べば居場所作りにもとてもいいと思います。

○原田教育長

婦人文化教室に料理教室があり、コミセンで活動しています。西部小学校に限らず、場所が違って、その主催事業として取り組むこともできていると思っています。

○田宮町長

町内には外国人登録している人が 164人います。そういう方々に案内して、たとえば紅花資料館を案内するという等、接触する機会が非常に多くなると思います。

○大山教育委員

去年、紅花資料館から、緊急の電話が自宅にきたことがあり、スウェーデンかオランダからの夫婦がいらっしやって、後で話を聞くと、仙台の三越で展示会をする芸術家の夫婦だったようでした。展示会の前に、紅花資料館に来たくて寄ってみたということでしたが、英語がわからないので来てくれということでした。そこには紅花資料館のガイドさんがいらっしやったのですが、ガイドさんが言っていることを通訳したかったのですが、あまりにも専門用語でわからなかったという主人の話でした自分もガイドの講習を受けないと、きちんと伝えられないから、そういう講習会があったらいいな、と言っていました。

○原田教育長

生涯学習課では何かありますか。

○矢作生涯学習課長

どうしても学齢期が中心となってくるかと思っています。

○田宮町長

みなさんが集まれるように西部小学校を改装しますので、遠慮なく提案してください。

○大山教育委員

KIRAは小学校の子も中学校の子も入れていいですかという問合せがありますが、すごい差があるので続けていくのができないのでは、といことでブラッシュアップセミナーとはまた別に違うグループがあればいいなど、やはり思います。

○田宮町長

来年、こういった方向付けがあればということで、山口先生や真木先生の見もいただきながら、東根でも取り組んでいるようですが、河北は河北方式でお願いしたいと思っています。

○原田教育長

河北の特徴は、ほかのところは学校教育であります。河北は、それだけではなく一般の方も対象にした

いと思っています。

○田宮町長

全体的に来年度に向けて、全てできるということではありませんが取り組んでいきたいと思います。よろしく
お願いします。

4 その他

5 閉 会

○田川課長補佐(兼)管理係長

これをもちまして、平成29年度 第1回河北町総合教育会議を終了いたします。

～午後2時45分